

札幌 市民防災

第 25 号

令和 3 年 10 月 31 日
札幌市民防災団体連合会

発行責任者 田畑 隆二

令和 3 年度

札幌市民防災団体連合会総会(書面決議)・ 札幌市総合防災訓練(東区モエレ沼公園開催) 中止のお知らせ

札幌市新型コロナウイルス感染症対策本部会議にて「まん延防止等重点措置」の期間中、市民を集めた防災訓練を実施することは難しいと判断。今年度の総合防災訓練を中止することが決定しました。連合会も市全体の町内会では日頃から地域の特性をいかした活動に町内会役員が中心となり災害に対する訓練等を行っていますが、今年も新型コロナウイルス感染症のため計画通り実行されてません。総会も例年通り準備を進めてましたが、書面決議とさせていただきます。

一日も早くコロナ終息することを願ってます。



新型コロナウイルス感染症との闘い

札幌市長 秋 元 克 広

札幌市民防災団体連合会の皆様におかれましては、日頃から札幌市の防災行政に御理解と御協力を賜り、誠にありがとうございます。

また、新型コロナウイルス感染症対策においては、市民の皆様や事業所の皆様に、不要不急の外出自粛、休業要請や営業時間の短縮要請等への御協力をいただいたことにより、新規感染者数が着実に減少してきていることに対し、併せて感謝申し上げます。

札幌市としては、防災対策に並ぶ危機管理上重要な課題であるとの認識の下、市民の生命を守るため、最優先事項として感染症対策に取り組んでまいりましたが、その間にも地域の防災活動に多大な影響を及ぼしている状況を鑑みますと、感染拡大の波が落ち着きつつある今が極めて重要な時期となります。

一日でも早く、安全で安心な暮らしを取り戻せるよう、今後も札幌市は全庁一丸となって対策に取り組んでまいりますが、市民の皆様におかれましても、お一人お一人が、これまで取り組んでいただいた対策を見つめ直し、再度徹底していただくことにより、感染の再拡大防止につながりますので、今一度、皆様の御理解と御協力をお願いしたいと思います。

結びになりますが、札幌市民防災団体連合会の、今後、益々の御発展と、会員皆様の御健勝、御活躍を心から御祈念申し上げますとともに、札幌市の防災行政に特段の御理解と御協力を賜りますようお願い申し上げます。



地域でつくる「安全・安心まちづくり」

札幌市民防災団体連合会 会長 田 畑 隆 二

紅葉の候、会員の皆様におかれましては益々ご健勝のこととお慶び申し上げます。

また、日頃より当会の活動につきまして、特段のご理解とご協力を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、新型コロナウイルス感染症の拡大がやっと収まる気配が出てきました。緊急事態宣言や外出自粛等が解除され、少しずつ日常が戻りつつ有ります。

会員の皆様におかれましては、地域の安全・安心を確保する為の防災活動が自粛等で制限され厳しい1年であったと思います。

しかしながら、東日本大震災以降自然災害の発生増加に伴い、地域の防災活動（特に風水害）の重要性が一層高まっているところです。

コロナ禍の中で、避難所運営に必要な資材の備蓄や運営方法(マニュアル)の構築が、災害時での地域の「安全・安心まちづくり」に繋がると思っております。

当会も、札幌市危機管理対策室との連携を図りながら、札幌市の防災情報や広報紙の発行で地域防災活動の紹介等を含め防災情報の発信を進めて行きたいと思っております。会員皆様におかれましては、感染拡大に充分ご注意ください地域活動を進めて頂ければと思います。

今後とも、札幌市民防災団体連合会に更なるご協力をお願い申し上げます。



北海道胆振東部地震から3年

札幌市危機管理対策室長 萩 田 葉 一

札幌市民防災団体連合会の皆様には、日頃から地域の防災活動に先進的に取り組まれており、その取り組みの全市への広がりには御貢献いただいておりますとともに、札幌市の防災行政に御理解と御協力を賜り、誠に感謝申し上げます。

さて、平成30年9月6日に発生し、札幌市及び北海道内に甚大な被害をもたらした「北海道胆振東部地震」から3年の歳月が経過しました。改めまして、お亡くなりになられた皆様に謹んで哀悼の意を表しますとともに、被害に遭われた皆様に心よりお見舞い申し上げます。

北海道胆振東部地震では、札幌市東区で震度6弱を観測したほか、市内の広い範囲で震度5弱以上の強い揺れに見舞われ、市内各地において道路の隆起や陥没、断水などが発生しました。

また、地震に起因して道内全域の約295万戸が停電するブラックアウトが発生したことは、想定外の範囲を大きく超える事態となり、地震による直接的な被害と併せて市民の皆様の生活に多大な影響を及ぼしました。

震災から3年が経ち、時が経つにつれて風化という課題が浮かび上がってきます。先日、地震で大規模な液状化の被害を受けた清田区において、地震の記憶を伝えるための伝承碑が設置されまし

防災コラム

近年、中国地方や九州地方で激甚化する風水害において「線状降水帯」という言葉をよく聞くようになりましたが、北海道においても発生頻度が増加傾向にあります。

そこで今回、どのようなものを「線状降水帯」と呼ぶのか解説したいと思います。

積乱雲が、線状に次々に発生して、ほぼ同じ場所を通過・停滞する自然現象で、線状に伸びる**長さ50～300km程度、幅20～50km程度**の強い降水を伴う雨域のことをいい、結果として、非常に強い雨が特定の地域に長時間連続して降り続けることとなります。

日本でこの用語が頻繁に使われるようになったのは、2014年の「平成26年8月豪雨」による、広島市の土砂災害以降とみられています。



た。私たちが経験した災害の記憶を、日々の防災につなげていただき、今後に生かし続けていただくことに期待しております。

今後も、行政と地域が一体となった強靱な防災体制を確立してまいりたいと考えておりますので、引き続き、皆様のお力添えをよろしくお願い申し上げます。

終わりになりますが、皆様の今後ますますの御健勝、御活躍を心からお祈り申し上げます。



新型コロナウイルス感染症とペットの存在

(公社)札幌市小動物獣医師会 副会長 玉 井 聡

唐突な質問ですが、あなたがペットの飼主だとして、ご自身が新型コロナウイルス感染症に罹り入院する事になったら、ペットをどうしますか？

「誰かに預ける。誰かに託す。」・・・まずはそんな答になるでしょう。

屋外に出て獲物を捕まえてくるネコなら自給自足で生きていけるかもしれませんが、今時のペットはそうはいきません。誰かが飼養しなければならないのです。餌の問題だけではなく、排泄の問題、イヌなら散歩に連れ出す必要もあるでしょう。持病があり投薬の必要があれば、それも誰かに託さないといけません。知らない人の手でちゃんと飲めるでしょうか？預けている間に動物病院を受診する必要があるかもしれません。動物の診察券、保険証、それなりのお金を預けておく必要も生じるでしょう。

これらは何もあなたが新型コロナウイルス感染症に罹り急遽入院となった時だけではなく、突然の病気や怪我、災害等でペットと暫く離れなければならない事情が出来た時にも通じる話なのです。

日頃からペットの預託先を確保しておく事も大事ですが、預かった方がペットの性格や食餌管理、持病や投薬に至るまでをしっかりと理解し適切な対応できる言わば「ペットのトリセツ（取扱説明書）」を準備しておく事を少し考えてみませんか？



今 思 う 事

里塚中央町内会 会長・里塚中央災害復興委員会 会長 盛 田 久 夫

胆振東部地震の発生から三年が経過しました。

先日ぽぷら公園の工事完了後、イベントを開催致しました。ようやくひと区切りがついた様に思います。

地震当日には、数名の役員と共に避難所を訪問し、避難者名簿による確認から始めました。

初めての経験であり、町内会としても何から手を付けて良いのか暗中模索の状態が続きました。役員会等を開き防犯の点から夜間のパトロールを実施することとし、役員町内会の有志の皆さんの協力を得る事が出来ました。

又回覧板を回すのが難しい事から、ゴミステーションの近くに掲示板を設置しました。

その後被災者から要望、不安、不満の声があがり町内会の対応も難しく被災者と一部役員による災害復興委員会の立ち上げとなりました。

数回の住民説明会、復興委員会独自による住民交流会を実施し被災者の気持も徐々に落ちついた様に思います。

又、地震後の翌年から現地事務所が置かれ、二名の職員が常駐された事も被災者には大きな力となりました。

行政、工事関係者、地域住民が一体となり他にも類を見ないスピードで工事が進められました。

多くの方々の御支援、御協力のおかげでここまで来る事が出来ました。深く感謝申し上げたいと思います。

残念ながら里塚に戻って来られない方もいる中で、新しく住まれる若い人達も増えつつあります。

整備されたぽぷら公園では子供達の賑やかな声が戻って来ました。今後益々住み良い街づくりを目ざし縁あって里塚に住んで良かったと思われる様、我々も頑張っ行かねばと考えております。

お世話になった皆様方の為にも。

災害時の外国人支援

公益財団法人札幌国際プラザ **大 高 紡 希**

札幌には2021年9月1日現在、13,636人の外国籍住民が暮らしており、札幌市の人口のおよそ0.7%が外国籍です（統計さっぽろ9月号）。

また、新型コロナ禍以前には、1日平均約8,000人の外国人が札幌を訪れており、平成30年北海道胆振東部地震では、避難した札幌市内の観光客のおよそ6割が外国人だったといわれています。

外国人が日本で災害に遭うと、さまざまな壁を感じるといわれています。

日本語がわからないことで情報が得られない「ことばの壁」、罹災証明や補助金など日本特有の制度がわからない「制度の壁」、外国人に対する理解不足や頼る人が周りにいないことによる「こころの壁」、災害がない国から来ていれば災害に対する知識が乏しく、さらに生活習慣の違いにより避難生活でトラブルを抱えてしまう「経験・習慣の壁」といった困難を抱えます。

こういった様々な壁を解消するために、札幌国際プラザでは、平時には外国人を対象とした防災啓発事業を行うほか、大規模災害時には札幌市との協定に基づき「災害多言語支援センター」設置し、外国人の支援にあたります。

今後とも、外国人が札幌に安心して住める、訪れることができる体制をつくることで、札幌の魅力を高め多様性を認め合える豊かなまちにしていきたいと考えています。



地域防災担当者の紹介



齋藤地域防災担当係長

酒巻係員

札幌市危機管理対策室で地域防災の業務に尽力されていた早川係長が、本年4月の人事異動で南区健康・子ども課へ転出され、新たにお二人の職員が転入されましたのでご紹介します。

齋藤係長

「初めまして、消防局からの出向ですが、今年の3月末まで鹿児島市危機管理局へ2年間派遣されていました。札幌市の地域防災力が向上するよう、色々なことに取り組んでいきますので、どうぞよろしくお願いいたします。」

酒巻係員

「今年度から地域防災担当係に部内異動となりました。地域防災の業務は初めてですが精一杯頑張ります、よろしくお願いいたします！」

編 集 後 記

今年も新型コロナウイルス感染症の拡大により町内会活動も中止が多く聞かれました。特に子どもたちの楽しみの学校行事、夏休み中のラジオ体操、盆おどり、家族旅行等…。

又、町内役員の方々は行事中止対応のご尽力ご苦労様です。

ワクチン接種完了者も7割近く終了と発表され、元気で活気ある町内会活動が再開されます事祈ってます。健康には十分お気をつけましょう。

副会長 広報部長 渡辺 恵美子 FAX・TEL 011-851-9583 番

市町内会加入世帯・世帯人数 673,613世帯

印刷所 北晃社 斎加印刷所
札幌市西区八軒1条東5丁目
電話 011 (631) 1271